
広げよう！学びと仲間の輪

～教育の原点への挑戦～

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称及び目的

本プロジェクトの名称は、「広げよう！学びと仲間の輪～寺子屋～」である。

私たちが生きる現代は隣に住んでいる人を知らない、言葉を交わしたことがないなど、家庭と地域社会との関わりが希薄になってきている。今後ますます複雑な社会になるにつれて、様々な人と関わる力が子どもたちに求められているが、それを学校教育だけで育むことは困難である。そこで私たちは、かつて「寺子屋」として教育を担ってきた、教育の原点ともいえる寺院に着目し、社会教育の視点から子どもたちと関わろうと考え、本プロジェクトを行うこととした。

2. 代表者および構成員

・代表者

杉山 侑鈴奈 国語領域専攻 4回生

・構成員

楠田 優花子 国語領域専攻 4回生

中村 沙季 国語領域専攻 4回生

岸田 茉子 国語領域専攻 3回生

鳴橋 杏里 国語領域専攻 3回生

梅田 ちひろ 社会領域専攻 1回生

3. 助言教員

西井 薫 先生

4. 協力団体

・遍照院（京都府宇治田原町）

本プロジェクトで行ったイベントの会場であり、イベント当日の運営にも協力していただいた。

・茶ッピー未来基金

第2章 内容や実施経過など

1. イベントの準備

(1) 当日の企画

〈時期〉6月～7月

寺院、遍照院に協力していただいて開催するイベント「てらこやへんじょういん」当日の企画を行った。学生だけで三回、遍照院と合同で一回の計四回打ち合わせを行った。打ち合わせで決定した当日の主な企画は以下の通りである。

・レクリエーション…おなまえビンゴ

マスに参加者の名前をランダムで入れたものを用意し、子どもたちに配布する。子どもたちは自己紹介をしあい、出会った友達の名前にチェックを入れる。この活動を通して、参加者全員の仲間意識を育てる土台とする。

・モノ作り体験…牛乳パックで写真たて

イベントの思い出に残るものとして工作を行う。工作は身近なものを使うことで、身の回りにあるものを大切にしようとする心を育むねらいがある。また、対象となる子どもは幅広い年齢が予想されたため、できるだけ工程が簡単になるよう試作品を作る等して考えた。

・遊びの企画…スイカ割やフルーツ流し

子どもたちの積極的な交流を図るためにいくつかの班を作り、スイカ割りやフルーツ流しなどの遊びを企画した。この際に使用するスイカや竹は寺子屋のイベント開催を知った地域の方々が協力して用意してくださった。

・寺院ならではの体験…掃除、お勤め体験

寺院との打ち合わせの中で、「子どもにとってお寺は近寄りやすい・怖いなどの印象があるのではないか」というお話をお聞きした。そのような子どもたちに友達と「お寺ならではの」体験をさせることでお寺での思い出を作るねらいで企画した。

(2) イベントの広報

〈時期〉7月中旬～8月上旬

イベントを広報するために、以下のようなチラシを作成した。

寺子屋「へんじょういん」

夏休み、家でテレビやゲームばかりだと...
そうだ！寺子屋「へんじょういん」に行こう！

日時 8月19日(日) 10:00~16:00

場所 遍照院

対象 小学生~中学生 (ご家族さんだけでなく、お友達やご親戚の方もぜひ！)

当日の予定

- ★お勉強の時間
(夏休みの宿題をしてもOK！)
- ★お楽しみ時間
(楽しい企画をたくさん用意しています)
- ★お飲みの時間
(おならではの体験ができます)

※当日は、京都教育大学の学生も一緒に活動します！

ワークショップ

家にあるもので作ろう！

オリジナル写真立て

家にある牛乳パックを使って
誰でも簡単に作れる自分だけの写真立てを作ってみよう！

【持ち物】

- 筆記用具
- 参加費 500円 (昼食代、保険代等)
- (持っている夏休みの宿題)
- 手きりかばん
- 1000mlの牛乳パック (一人一枚、乾かして開いた状態でお願いたします)

申し込み締め切り 8月12日(日)

※お申込み・お問い合わせは FAX または メール で受け付けています。
電話：0774-95-3521
FAX：0774-26-5214
メール：henjoin_tera58@gmail.com

詳しくは裏面をご覧ください。

2. イベントの実施

(1) 当日の様子

イベントは、8月19日(日)に遍照院で行われた。



写真：お名前ビンゴで自己紹介をしあう子どもたち
初めは一緒に来た友達や兄弟と話していたが、少しずつ初めて見る友達と言葉を交わす姿が見られた。誰に話しかければよいか困っている子どもたちに学生が声をかけ支援をした。



写真：勉強をする子どもたち
各自が持ってきた夏休みの宿題やこちらで用意した教材を使って勉強をしている。学生は学習の指導や子どもに合った教材の選定などを行った。



写真：食事を食べる子どもたち
遍照院と地域の方が作ってくださったカレーを昼食として食べた。学生は班毎に協力して準備を行うこと、昼食を用意してくださった方々に感謝して食べることなどを指導した。

寺子屋「へんじょういん」申込書

ふりがな			
参加者氏名			
学年/性別	小・中・学校	年	男・女
ふりがな			
参加者氏名			
学年/性別	小・中・学校	年	男・女
ふりがな			
保護者氏名			
住所			
緊急時連絡先	ふりがな		
	氏名		
	電話番号	()	-
アレルギー	なし	小麦・卵・そば・牛乳・落花生	
		その他()	
その他 (何か注意してほしいこと等があればご記入ください)			

※住所は、寺子屋終了後のアンケート送付のために使用させていただきます。
※小学生以下のお子様の参加希望については、ご相談ください。

また、裏面は申込書とし、食事の際のアレルギーや要望等を書く欄を設け、保護者の方の不安を軽減することができるようにした。

宇治田原町で地域と繋がりながら子どもと関わっている「茶ッピー未来基金」の方に協力していただき、作成したチラシを配布していただいた。

さらに、京都府山城地域の地方紙である「洛南タイムス(現:洛タイ新報)」でもイベントの広報をしていただいた。



写真：牛乳パックで写真立てを作る子どもたち



写真：子どもたちが作った作品

牛乳パックを使った写真立ての作り方について、一斉指導と個別指導を使い分けながら教えた。シールやペン等の道具を譲り合って使う子どもたちの姿が印象的であった。



写真：スイカ割りをする子どもと応援する子ども達

スイカ割りの際はただ見ているだけでなく、声や音を出しながらにぎやかに応援することで子ども同士の積極的な交流を図った。



写真：フルーツ流しを体験する子どもたち

地域の方がお寺の竹林から切り出してくださった竹を利用してフルーツ流しを行った。年上の子どもが年下の子どものためにフルーツを取ることを我慢したり、なかなか取れない子に対して声掛けをしたりするなど、子ども同士の積極的な交流が見られた。



写真：寺の本堂を掃除する子どもたち



写真：遍照院の副住職の話聞く子どもたち

普段あまり入ることのないお寺の本堂の掃除では、「木の目に沿って拭くといいよ」と子ども同士で掃除の工夫を教え合ったり、「ここも掃除しよう」と自分から掃除するところを探したりする姿が見られた。学生は子どもたちが安全に掃除できるよう様子を見守った。

お勤めの時間では遍照院の副住職から「おじぞうさま」のお話をしていただき、子ども達は興味深そうに話を聞いていた。最後の挨拶では、学生から子ども一人一人にこの一日で頑張ったことや成長した

ことを伝え、賞状を渡した。子どもたちは自分が頑張っていたことを褒められ、嬉しそうにしていた。

3. 事後アンケート等の作成・送付 (12月中旬)

イベント終了後、後期に入ってから再び数回ミーティングを重ね、イベントの満足度を問うアンケートを作成した。質問項目は以下の通りである。

(子ども向け)

- ・寺子屋は、たのしかったですか？(三つの顔のうち、自分の気持ちに当てはまるものに色を塗る)

- ・感想や、先生へのメッセージがあれば書いてね。

(保護者向け)

- ・保護者の方のご意見・ご感想をお聞かせください。

また、アンケートにはイベント当日の子どもたちの様子を収めた写真や動画をまとめたDVDを作成し同封した。詳しい様子を見ておられない保護者の方向けの物で、子どもたちが保護者の方と一緒に新しくできた友達や当日の思い出を語る機会を作ることを目的として作成した。

出来上がったDVDとアンケートに挨拶状を同封し、参加者へ送付した。

第3章 結果や成果など

1. イベントの成果

(1) 地域への広報

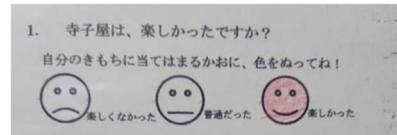
イベントの告知をしていただいた新聞社「洛南タイムス」によって地域の方々にイベント当日の様子を伝えるとともに、私たちの活動についても広報することができた。



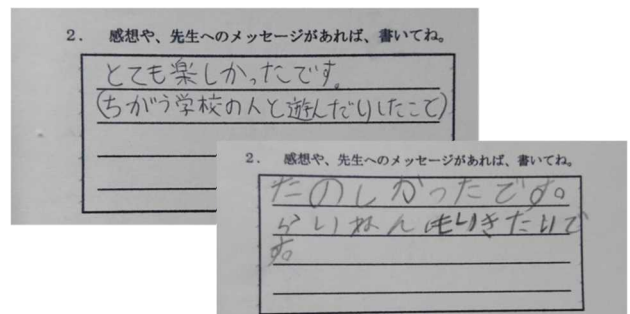
写真：洛南タイムス（8月22日(水)発行）内の記事

(2) 事後アンケート結果

イベント参加者への事後アンケートの結果は、全ての子どもが以下の図のように最も高い満足度を示す「楽しかった」に色を付けていた。

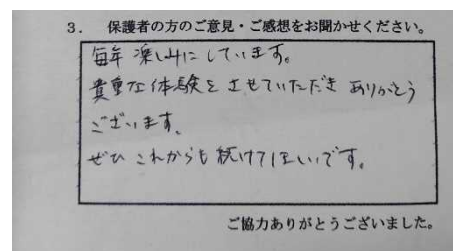
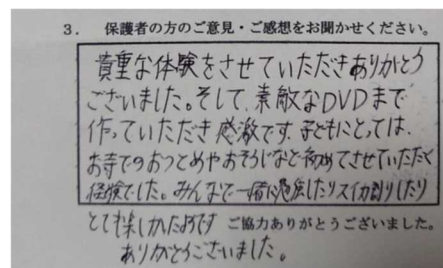


このことから、全ての参加者が「てらこやへんじょういん」に非常に満足していたことがわかる。



上の二つの図は、子ども達の感想を抜粋したものである。子ども達の感想を見ると、学校が異なる人との交流が楽しかったというものがあつた。イベントを通して子どもたちに人と関わることの楽しさを伝えることができたと言える。また、遊びの企画はもちろん、掃除やお勤めなどお寺ならではの体験にも楽しかったという感想が寄せられた。事前の打ち合わせの際にお聞きした話を活かした企画をすることができたと言えるだろう。

さらに、保護者の方へお聞きした感想を抜粋したものを以下の図に提示する。



回答を見ると分かるように、イベントは保護者の方からも高い満足度を得ることができた。感想の中には来年以降のイベントの続行を期待する声もあるなど、大きな成果があったと言える。

(3) 遍照院の方との反省会

イベント終了後、遍照院の方との反省会を行い、イベントの成果について感想をお聞きした。昔は地域の子どもたちの遊び場として機能していたお寺だったが、最近では子どもが少なくなり、色々な子どもが集う場所ではなくなっていたものの、一日楽しそうに過ごす子どもたちを見て良かったと感じたとお話しして下さった。わずか一日であっても子どもたちの教育の場としてお寺が活躍する機会があるのであれば、今後も様々な形で協力すると言ってくださり、イベントを通して協力していただいた寺院にも非常に満足していただくことができた。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

1. まとめと反省

(1) 活動の成果

本プロジェクトでは、大きく分けて二つの成果を得ることができた。まず一つ目は、子どもたちに様々なことを学ぶ場を提供できたということである。今回のイベントには学年を異にする二十名程度の子どもが参加してくれた。アンケート結果からもわかるように、夏休みの一日をお寺で過ごすことで大きな満足度を得ることができただけでなく、朝来た時には知らなかった人と帰るときには遊ぶ約束までするほど仲を深めることができていた。子どもたちは、昼食を作ってくれた人や施設を用意してくれた人の顔を見ながら過ごすことで、自分たちのために地域の様々な人が力を出し合ってくれたのだということも学び取ることができた。

もう一つの成果は、私たち学生の学びである。イベントを企画・運営するにあたって、遍照院を中心とした地域の方々に様々な場面でお力をお借りした。地域と繋がって子どもを育てるということはどうい

うことかを身をもって体験することができた。また、子ども達一人一人への丁寧な指導の大切さを実感することができた。学校という枠組みが無い中で、子ども同士の交流をどう促すかということも大きな課題の一つであったが、勇気を出して新しい友達を作ろうとする子どもたちの姿に私たちの方が多くのことを学ぶことができた。

(2) 反省

本プロジェクトでの反省は、活動が少なくなってしまったということである。6月ごろから活動を開始し、イベントの企画・運営を行ったが、それを活かして次の活動に繋げることができなかったのが反省点である。

2. 今後の展望

(1) 学内における活動

今後の展望として、まず、学内における広報活動を行いたいと考える。私たちの活動をより多くの学生に知ってもらい、様々な学年・領域の学生が集まるという強みを生かしてより良いイベントの企画などを行っていければと考える。

(2) 学外における活動

今年は夏休みに遍照院をお借りして開催したイベントのみであったが、今後は茶ッピー未来基金のような外部団体と協力するなどして活動の幅を広げていきたいと考える。